

## 布施精密発條 株式会社

### バネ総合メーカー 複雑形状・特殊材加工のスペシャリストへ

#### 事業内容

##### 精密バネを製造・販売

精密バネを主軸とする金属部品の製造販売業を手がける。昭和31年、東大阪市御厨に小さな町工場(有)布施精密発條として誕生。創業から半世紀「あらゆるスプリングを製造販売する」を標榜し、職人技の熟成と他社に先行する積極的な高性能機械群への投資により、多様なオーダーメイド品の製造を実現してきた。

##### 製品・取引先は多岐にわたる

同社のバネは車両、電気製品、バルブ、工具メーカーなど多種多様な業種で使用され、取引先は150社を超える。

代表製品は「ケーブルハンガー」。平成11年より量産を開始し、年間70万個製造する。その他に、大型サイズで、金属線を複雑な形状に加工するワイヤフォーミングとよばれる技術や、チタンやインコネルなどの特殊材の加工にも注力する。

#### 布施精密発條 株式会社

代表取締役 野田 修  
〒578-0901 大阪府東大阪市加納5-9-35  
TEL. 072-874-5033 FAX. 072-874-8255  
資本金/10,000千円 従業員/10名  
主な取引/車輜・自動車・電気製品・バルブ・  
工具メーカーなど  
主な保有設備/コイルマシン30台、フォーミング  
マシン10台、研磨機3台、テンパー炉  
5台、投影機1台など  
主力製品/コイルバネから複雑な金属曲げ加工まで

小ロット  
OK

オンライン  
の依頼

量産  
OK

試作  
OK

#### バネへの情熱で顧客ニーズに応え続けます

代表取締役 野田 修

創業60年・設立50年を超えた今も「スプリング」にかける情熱・職人技の研鑽が途切れることはありません。試作1月個から1,000万個まで、顧客ニーズの実現に尽力させていただきます。お気軽にご相談ください。



<http://www.fuse-sp.com/>

#### 補助事業

##### CNC画像寸法測定器を導入

平成28年度の「ものづくり補助金」でCNC(コンピュータ数値制御)画像寸法測定器を導入した。これまで、バネの検査はノギスと呼ばれる測定器具を使用していたが、正確で安定した測定には職人技が必要で、職人以外による第三者の検査が難しく、一度に製品の、1つの箇所しか計測できないため時間がかかってしまうなどの課題があった。

##### 検査の客観性、品質保証にメリット

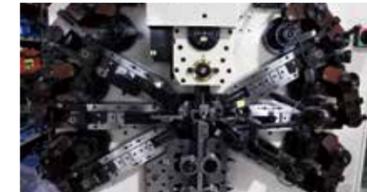
新たに導入したCNC画像寸法測定器は、職人や検査を専門とする社員でなくても使用できる。また、検査の精度も向上し、信頼性の高いデータが得られるうえに、一度に複数箇所の測定ができ、効率化につながる。顧客ニーズに目を向けても、製造業全体のグローバル化が進むなか、日本の製造業は「品質」を競争力の源泉としてきた。導入によって、品質に対する顧客の厳しい要求に対しても、よりきめ細かい対応が可能となる。



導入したCNC画像寸法測定器



ケーブルハンガー



新規導入設備TF-23

#### 具体的成果

##### 品質管理体制強化で信頼獲得

CNC画像寸法測定器の導入により、検査工程にかかる時間を1日当たり約30分削減。生産能力は7%向上した。同社が一番成果を実感するのは「品質管理体制強化によって、より信頼を得られるようになったこと」だという。

職人以外の第三者の目で検査ができ、品質の客観性を保つことができる。目視で判断していた微妙な誤差も、機械で判断可能となった。顧客が工場見学に来る場合も、品質が担保されていることを実演できる。加えて今回導入した画像寸法測定器は顧客も多く導入しているタイプのもので、検査基準を統一でき顧客が求める品質を確保しやすい面もある。

##### 信頼度の向上が営業の武器にも

営業ツールとしても活用できる。例えば、画像寸法測定器で測定した図面は、顧客に分かりやすく品質情報が伝えられる。品質への設備投資がアピールポイントにもなる。信頼度の向上は目に見えづらいものだが、同社の年間売上高は直近2-3年間で1,000万円ほど増加した。品質管理体制への取り組みが新たな取引開始につながり、売上の数字としても表れ始めている。

#### 今後の戦略

##### 高付加価値製品への取り組み展開

ケーブルハンガーなど同社主力の異形状バネは、特殊形状加工が施された技術力を要する製品だ。付加価値が高く、売上の大部分を占める。特殊形状加工が施されているため、特に精度の高い寸法検査が必要だが、CNC画像寸法測定器導入により品質管理体制が強化された。

国内の生産需要は縮小傾向にあり、低品質・低価格の製品は海外との激しい競争にさらされている。海外に生産拠点を置く大手メーカーは品質管理体制の充実を求めており、同社は高品質化で生産需要獲得を目指していく。新たな顧客獲得、販路開拓、高品質が要求される高付加価値製品への注力を図る。

CNC画像寸法測定器はデータの自動蓄積が可能。データベース化による業務効率化の実現も想定する。

##### バネへの熱い思い

高付加価値製品に取り組みながらも「単純なバネにも思いを込めて作り続けていきたい」と野田社長は話す。バネは普遍性・応用性・汎用性が高い道具として使われ続けてきた。ワイヤフォーミングの技術や特殊材の加工に注力しつつも、バネの基本を大切に業務に取り組む構えだ。

#### 取材を終えて

##### 信頼は情熱があつてこそ

製造業の厳しい現実と、ものづくりへの熱い思いを同時に感じた。国内でのバネ生産需要は縮小傾向にあり、野田社長も「昔ながらのバネ屋さんには減ってきている」と話す。CNC画像寸法測定器の導入で、特殊形状の高付加価値製品への取り組みを加速させる同社。「単純なバネにも思いを込めて作り続けていきたい」という基本を大切にする姿勢や思いがあつてこそ、顧客の信頼も勝ち取っていくことができるのだろうと感じた。